

令和 7 年度

一般選抜 A 日程 (2/4)

国語

出題意図

I	幸田文の小説「ひのき」(『木』所収、新潮社)の一場面を素材とした。本問は、漢字知識、内容理解、文脈理解、登場人物の心情を適切に読み取る能力、文学史的知識を問うことを意図して出題した。 問一、二、四、六、九は「私」の心情を的確に読み取ることができているかどうかを問う問題である。また、問五、問七は、文脈を読み取りながら、適切な文学的表現を選択する力を判定するための問題である。 また、問一〇は、グループワークディスカッションの視点を取り入れ、話し合いの口語的表現の文脈を理解する力と本文の文学的表現を正しく理解する能力の双方を判断する、というハイブリッドな能力を問う問題として出題した。
II	近森高明『現代文化を学ぶ人のために』(世界思想社)所収の「都市文化としての現代文化」の一部を素材とした。 本問は、漢字知識、内容理解力、文脈理解力を問うことを意図したものである。 問一、問五は漢字知識・適切な接続詞を選択できる能力を問う問題である。問二、問九は、本文に合致する適切な表現を選択できる能力、問三、問四、問七は、辞書的な意味にとどまらない文脈に即した語句の意味を正しく選択できるかどうかを問うための出題である。そのほか、筆者の意図を正確に理解できているかを問うものとして、問八、問一〇を出題した。
III	小松和彦『妖怪学新考 妖怪からみる日本人の心』(講談社)所収「五変貌する都市のコスモロジー」の一部を素材とした。 本問は、漢字知識、語彙知識、内容理解力、文脈理解力を問うことを意図して出題した。問二、問三、問四は漢字知識・語彙知識・適切な接続詞を選択できる能力を問う問題である。 問五～問八は、インターテキストとして引用された谷崎潤一郎「陰翳礼賛」の世界を筆者がどのように受容しているのか、というメタレベルの問いも含め、本文の内容を正確に読解する力を問う意図で出題した。